

50) イブプロフェン DLST 陽性で、薬剤中止後に再燃した NSIP の 1 例

(呼吸器内科) 勝田倫子, 三村一行, 後藤孝吉, 渡部悦子, 岡田秀明, 田畑寿子, 宮川倫子, 真弓哲一郎, 塚本宏壮, 守本明枝, 佐々木信, 河村哲治, 中原保治, 望月吉郎, (天理よろづ相談所病院病理) 小橋陽一郎. 第 72 回日本呼吸器学会近畿地方会: 2008. 12. 13. 大阪

51) 高齢で急性発症したサルコイドーシスの 1 例

(呼吸器内科) 岡田秀明, 勝田倫子, 三村一行, 後藤孝吉, 渡部悦子, 田畑寿子, 宮川倫子, 真弓哲一郎, 塚本宏壮, 守本明枝, 佐々木信, 河村哲治, 中原保治, 望月吉郎, (天理よろづ相談所病院病理) 小橋陽一郎. 第 72 回日本呼吸器学会近畿地方会: 2008. 12. 13. 大阪

52) 胸郭内病変を伴わず腹腔リンパ節腫大で発見されたサルコイドーシスの 1 例

(呼吸器内科) 守本明枝, 勝田倫子, 三村一行, 後藤孝吉, 渡部悦子, 岡田秀明, 田畑寿子, 宮川倫子, 真弓哲一郎, 塚本宏壮, 佐々木信, 河村哲治, 中原保治, 望月吉郎. 第 72 回日本呼吸器学会近畿地方会: 2008. 12. 13. 大阪

53) アミロイドーシスを合併したシェーグレン症候群の 1 例

(呼吸器内科) 宮川倫子, 勝田倫子, 三村一行, 後藤孝吉, 渡部悦子, 岡田秀明, 田畑寿子, 真弓哲一郎, 塚本宏壮, 守本明枝, 佐々木信, 河村哲治, 中原保治, 望月吉郎, (天理よろづ相談所病院病理) 小橋陽一郎. 第 72 回日本呼吸器学会近畿地方会: 2008. 12. 13. 大阪

G. 知的所有権の取得状況

なし

マウス急性肺損傷モデルの 病態におよぼす IFN- γ の影響に関する研究

研究協力者 濱田泰伸 愛媛大学大学院 病態情報内科学

研究要旨 急性肺損傷の病態には炎症細胞から放出される様々なサイトカイン、ケモカインの関与が報告されているが、interferon (IFN)- γ の影響に関しては十分に解明されていない。lipopolysaccharide (LPS) 投与によるマウス急性肺損傷モデルを作製し、急性肺損傷における IFN- γ の影響について検討した。急性肺損傷マウスに IFN- γ を投与することにより肺組織における炎症細胞浸潤は改善し、気管支肺胞洗浄液 (brochoalveolar lavage fluid: BALF) 中の好中球数は減少し、アルブミン濃度も低下した。また、BALF 中の KC, macrophage inflammatory protein (MIP)-2, interleukin (IL)-17 濃度および肺組織中の KC, MIP-2, IL-17 の mRNA 量は低下した。さらに IFN- γ を投与した急性肺損傷マウスの BALF 中の好中球遊走活性は低下していた。IFN- γ は好中球走化性ケモカインおよび IL-17 の抑制を介して急性肺損傷の病態を改善させる可能性がある。

A. 研究目的

急性肺損傷は先行する基礎疾患によって引き起こされる全身性炎症反応症候群の結果、両側性の浸潤影、低酸素血症をきたす病態である。組織学的にはびまん性肺胞傷害を呈し、その治療においては炎症から線維化へ至る一連の病態を制御することが重要であるが、現在のところ有効な治療法は確立されておらず、死亡率の高い難治性の疾患である。急性肺損傷の病態には炎症細胞から放出される様々なサイトカイン、ケモカインの関与が報告されているが、IFN- γ の影響に関しては十分に解明されていない。私達は LPS 投与によりマウス急性肺損傷モデルを作製し、急性肺損傷における IFN- γ の影響について検討した。

B. 研究方法

6-8週令の BALB/c マウスに 100 μ g の LPS を点鼻により投与し、マウス急性肺損傷モデルを作製した。急性肺損傷モデルの BALF 中の好中球数、アルブミン濃度、好中球遊走に参与する KC, MIP-2 および IL-17 濃度について検討した。また、

凍結肺組織を用いて、KC, MIP-2 および IL-17 の mRNA 量について検討した。次に、IFN- γ を投与し、組織学的な変化および BALF および組織中のサイトカイン、ケモカインの変動について検討した。さらに、BALF 中の好中球遊走活性に対する IFN- γ の影響を検討した。

C. 研究結果

急性肺損傷マウスでは LPS の投与により肺組織に炎症細胞の浸潤を認めた。BALF における検討では好中球数、アルブミン濃度、KC, MIP-2, IL-17 の増加を認めた。一方、IFN- γ の投与により肺組織における炎症細胞浸潤は改善し、BALF 中の好中球数は減少し、アルブミン濃度も低下した。また、BALF 中の KC, MIP-2, IL-17 濃度および肺組織における KC, MIP-2, IL-17 mRNA 量は低下した。IFN- γ を投与した急性肺損傷マウスの BALF 中の好中球遊走活性は低下していた。

D. 考察

LPS はマクロファージから好中球走化性ケモカインを放出させるだけでなく、マクロファ-

ジなどの存在下で Th17 細胞からの IL-17 の放出をひき起こして好中球走化性サイトカイン、ケモカインの局所放出を促し、好中球を気道へ遊走させ好中球炎症を引き起こすことが報告されている。IFN- γ はこの好中球走化性ケモカインの産生を直接抑制するだけでなく、CD4 + T細胞の Th17 への分化を抑制することにより IL-17 の産生を抑制し、結果として好中球走化性ケモカインの産生を抑制して好中球浸潤を軽減させることが報告されている。さらに、IFN- γ を予防的に投与すると肺損傷の病理像や炎症細胞数、肺水腫が改善することも報告されている。

私達の検討においても、IFN- γ はマウス急性肺損傷モデルの炎症細胞浸潤やアルブミンの漏出を減少させた。また、IFN- γ は LPS の投与により増加した KC, MIP-2, IL-17 を抑制し、BALF 中の好中球遊走活性を低下させた。好中球走化性ケモカインおよび IL-17 の産生亢進が急性肺損傷の病態を形成するが、IFN- γ はそれらの産生を抑制して肺病変を改善させることが示唆された。

E. 結 論

IFN- γ は好中球走化性ケモカインおよび IL-17 の抑制を介して急性肺損傷の病態を改善させる可能性がある。

F. 研究発表

1. 論文発表

原著論文

- 1) Ito R, Yokoyama A, Hamada H, Yasuhara Y, Kohno N, Higaki J. Effect of inhaled bronchodilators on air trapping in patients with stable asthma. *J Asthma* 43: 125-129, 2006.
- 2) Yokoyama A, Kondo K, Nakajima M, Matsushima T, Takahashi T, Nishimura M, Bando M, Sugiyama Y, Totani Y, Ishizaki T, Ichiyasu H, Suga M, Hamada H, Kohno N. Prognostic Value of Circulating KL-6 in Idiopathic Pulmonary Fibrosis. *Respirology* 11: 164-168, 2006.
- 3) Nakataki E, Yano S, Matsumori Y, Goto H, Kakiuchi S, Muguruma H, Bando Y, Uehara H, Hamada H, Kito K, Yokoyama A, Sone S. Novel orthotopic implantation model of human malignant pleural mesothelioma (EHMES-10 Cells) highly expressing vascular endothelial growth factor and its receptor. *Cancer Sci* 97: 183-191, 2006.
- 4) Kadowaki T, Hamada H, Yokoyama A, Abe M, Nishimura K, Kohno N, Inata J, Kuraoka T, Moritani C, Higaki J. Significance of serum uric acid in patients with chronic respiratory failure treated with non-invasive positive pressure ventilation. *Intern Med*, 46: 691-697, 2007.
- 5) Hamada H, Irifune K, Ito R, Sakai K, Kadowaki T, Katayama H, Abe M, Shiode M, Nishimura K, Higaki J. Docetaxel and cisplatin as second-line chemotherapy for advanced non-small cell lung cancer. *Jpn J Cancer Chemother*, 34: 1235-1239, 2007.
- 6) Ohshima M, Yokoyama A, Ohnishi H, Hamada H, Kohno N, Higaki J, Naka T. Overexpression of suppressor of cytokine signaling-5 augments eosinophilic airway inflammation in mice. *Clin Exp Allergy*, 37: 735-742, 2007.
- 7) Inata J, Hattori N, Yokoyama A, Oshimo S, Doi M, Ishikawa N, Hamada H, Kohno N. Circulating KL-6/MUC1 mucin carrying sialyl Lewis (a) oligosaccharide is an independent prognostic factor in patients with lung adenocarcinoma. *Int J Cancer*, 120: 2643-2649, 2007.
- 8) Nakashima T, Yokoyama A, Ohnishi H, Hamada H, Ishikawa N, Haruta Y, Hattori N, Tanigawa K, Kohno N. Circulating KL-6/MUC1 as an independent predictor for disseminated intravascular coagulation in acute respiratory distress syndrome. *J Intern Med* 263: 432-439, 2008.
- 9) Ishikawa N, Hattori N, Yokoyama A, Tanaka S, Nishino R, Yoshioka K, Ohshimo S, Fujitaka K, Ohnishi H, Hamada H, Arihiro K, Kohno N. Usefulness of monitoring the circulating Krebs

von den Lungen-6 levels to predict the clinical outcome of patients with advanced nonsmall cell lung cancer treated with epidermal growth factor receptor tyrosine kinase inhibitors. *Int J Cancer* 122: 2612-2620, 2008.

- 10) Iwahori K, Osaki T, Serada S, Fujimoto M, Suzuki H, Kishi Y, Yokoyama A, Hamada H, Fujii Y, Yamaguchi K, Hirashima T, Matsui K, Tachibana I, Nakamura Y, Kawase I, Naka T. Megakaryocyte potentiating factor as a tumor marker of malignant pleural mesothelioma: Evaluation in comparison with mesothelin. *Lung Cancer* 62: 45-54, 2008.

症例報告

- 11) Kadowaki T, Hamada H, Miyoshi S, Hamaguchi N, Sakai K, Ito R, Yasutake-Oshima M, Higaki J, Kito K. Refractory pneumothorax secondary to lung cancer in a patient with idiopathic pulmonary fibrosis. *Intern Med* 47: 1251-1254, 2008.
- 12) 戸井孝行, 伊東亮治, 濱田泰伸, 酒井希美子, 濱口直彦, 門脇 徹, 三好誠吾, 檜垣實男, 阿部聖裕. 間質性肺炎を経過観察中に診断した myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA) 関連血管炎の1例. *日内会誌* 97: 803-806, 2008.
- 13) 三好誠吾, 濱田泰伸, 片山 均. 原発性空洞の形成を観察しえたサルコイドーシスの1例. *日呼吸会誌* 46: 341-345, 2008.

総 説

- 14) 濱田泰伸, 檜垣實男. 薬剤性肺疾患: 診断と治療の進歩 III. 主な薬剤性肺障害 1. 循環器領域. *日本内科学会雑誌* 96: 1107-1116, 2007.
- 15) 濱田泰伸. 過敏性肺炎とその周辺疾患 ベリリウム症: 過敏性肺炎との比較. *呼吸器科* 13: 449-453, 2008.

2. 学会発表

- 1) 第46回日本呼吸器学会総会(2006年6月1

日-3日: 東京).

- ①片山 均, 濱田泰伸, 門脇 徹, 伊東亮治, 酒井希美子, 檜垣實男: 急性肺傷害の病態におよぼす IFN- γ の影響
- ②中島 拓, 横山彰仁, 稲田順也, 濱田泰伸, 石川暢久, 春田吉則, 服部 登, 河野修興: 血清 KL-6 の経時的変化量は ARDS の予後および DIC 合併の予測因子である
- 2) 第56回日本アレルギー学会総会(2006年11月2-4日: 東京)
横山彰仁, 春田吉則, 峠岡康幸, 濱田泰伸, 河野修興: 薬剤性肺炎における血清マーカーの検討について
- 3) 第47回日本呼吸器学会学術講演会(2007年5月10-12日: 東京)
①門脇 徹, 濱田泰伸, 濱口直彦, 酒井希美子, 伊東亮治, 檜垣實男: 肺サルコイドーシス患者において他臓器病変を予測する際にどの血清マーカーが有用か?
- 4) 第48回日本呼吸器学会学術講演会(2008年6月15-17日: 神戸)
①片山 均, 濱田泰伸, 三好誠吾: 間質性肺炎における上部消化器症状に関する検討
- 5) 16th ERS Annual Congress, Munich, Germany, September 2-6, 2006.
Taku Nakashima, Akihito Yokoyama, Jyunya Inata, Hironobu Hamada, Noboru Hattori, Nobuoki Kohno. : Acute Increase in KL-6/MUC1 Mucin as a Potential Trigger of Disseminated Intravascular Coagulation in Acute Respiratory Distress syndrome.
- 6) 17th ERS Annual Congress, Stockholm, Sweden, September 15-19, 2007.
Toru Kadowaki, Hironobu Hamada, Naohiko Hamaguchi, Kimiko Sakai, Ryoji Ito, Jitsuo Higaki. : Study of Angiotensin-Converting Enzyme, Serum Amyloid A, Soluble Interleukin-2 Receptor, Lysozyme, and KL-6 in Serum as Diagnostic Markers in Pulmonary Sarcoidosis.

G. 知的所有権の取得状況

該当なし

当センターにおける間質性肺炎に対する PMX-DHP（ポリミキシン B 固定カラムを用いた血液浄化）療法の検討

研究協力者 小倉高志 神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器科 部長

研究要旨 間質性肺炎の急性増悪・急性間質性肺炎は非常に予後不良であり、ステロイドパルス療法や免疫抑制剤による治療が行われるが、確立された治療法はいまだない。最近、間質性肺炎の急性増悪例に対して、PMX-DHP 療法の有効例が報告されてきている。当センターで2005年11月から2007年11月までの2年間にPMX-DHP 療法を施行した間質性肺炎急性増悪・急性間質性肺炎の症例について、検討を行った。症例は16例で、男性9例、女性7例、年齢は52歳～80歳、平均年齢は66.5±7.0歳。症例の内訳は、IPF12例（うち生検でUIPと診断されたもの4例）、AIP/DAD1例、NSIP（Sjögren 症候群）1例、DAD（amyopathic DM）2例であった。PMX-DHP の効果判定は、短期効果（酸素化の改善）は10例で有効、中期効果（28日での生存）は8例で有効、長期効果（3ヶ月での生存）は6例で有効であった。PMX-DHP 施行前後での血液検査データの比較では、白血球数、好中球数に減少が認められ、PMX-DHP 療法により好中球が吸着され、このことが酸素化の改善に関与していると推測された。PMX-DHP 療法は、間質性肺炎急性増悪および急性間質性肺炎の新たな治療法になりうる可能性があると考えた。

A. 研究目的

間質性肺炎の急性増悪・急性間質性肺炎はきわめて予後不良の病態であり、有効な治療も確立されていない。近年、敗血症に伴う急性肺障害(ALI)や急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に対して、敗血症性ショックに適用されるポリミキシン B 固定カラム(PMX カラム)を用いた血液浄化療法 (PMX-DHP) の有効性を示す報告がなされており、間質性肺炎の急性増悪例に対しても使用経験例の報告がされてきている。当センターでPMX-DHP 療法を施行した間質性肺炎の症例について、PMX-DHP の有効性をレトロスペクティブに検討した。

B. 研究方法

当センターで、2005年11月から2007年11月の2年間にPMX-DHP を施行した間質性肺炎急性増悪・急性間質性肺炎の症例16例について、レトロスペクティブに検討を行った。当センター

における間質性肺炎急性増悪・急性間質性肺炎症例に対するプロトコルを以下に示す。まず、m-PSL500mg/日を3日間投与し、その後3日ごとに125mg/日まで半減し、その後はPSL0.5mg/kg/dayに切り替える。免疫抑制剤は、エンドキサンパルスを施行し、その後Cyclosporin Aを使用する。また、人工呼吸器管理、非侵襲的陽圧人工呼吸管理を行う症例では、Sivelestatも併用とする。基本的には、ステロイドパルス療法に反応の得られなかった症例にPMX-DHP を施行したが、患者の状態によってはステロイド治療と同時にPMX-DHP を開始した。

PMX-DHP 療法は、内頸静脈または大腿静脈にダブルルーメンカテーテルを留置し、TORAY Medical のトレミキシンを用いて、1回6時間、血流80-100ml/分にて行った。

急性増悪診断時からPMX-DHP 療法開始までの平均期間は、6.56±10.38日であった。施行時間は、当センターでは1回6時間、1症例あたり

カラム2本を基本にしている。ルートトラブルなどで多少時間が短くなることがあったが、平均施行時間は 5.53 ± 0.80 時間であった。1症例あたりの施行本数は、2本を基本にしているが、3本施行した例が2例、4本施行した例が1例あった。

(倫理面への配慮)

間質性肺炎に対するPMX-DHPの使用に関しては、当センターの倫理委員会での承認を得て、実施前に患者またはその家族に書面と口頭で説明を行った後、同意の上で施行した。

C. 研究結果

症例は16例で、男性9例、女性7例、年齢は52歳～80歳、平均年齢は 66.5 ± 7.0 歳。症例の内訳は、IPF12例(うち生検でUIPと診断されたもの4例)、AIP/DAD1例、CVD-IP3例(amyopathic DM2例、Sjögren症候群1例)。

急性増悪前の治療の有無については、前治療例が5例、無治療(経過観察例)が11例。気管内挿管され人工呼吸器管理したものが7例、NPPV装着が3例、酸素吸入のみが6例であった。3ヶ月の時点での生存は6例で、6ヶ月生存率は37.5%であった。

疾患別の予後は、IPFでは28日での生存は12例中8例、生存率は66%、そのほかの疾患では0%であった。16例全体では28日生存率は50%であった。

PMX-DHP療法の効果を判定するにあたり、短期効果として酸素化の改善、中期効果として28日時点での生存、長期効果としては3ヶ月時点での生存と定義した。有効例は、短期効果で10例、中期効果で8例、長期効果で6例であった。28日時点での生存率は50.0%、3ヶ月時点での生存率は37.5%であった。

PMX-DHP施行直前および直後での血液検査結果の比較検討では、白血球数と好中球数で有位な低下を認めたが、そのほかの項目では有意な差は認められなかった。

D. 考察

IPFの急性増悪の死亡率が80%と比較すると、今回の検討では死亡率57.1%と改善がみられている。しかし、PMX-DHP療法の施行するタイミング、施行回数、間隔、施行時間、Flow rateなどが一定でなく、検討の余地が多い。今後、無作為比較試験も含めて、IPFの急性増悪に対するPMX-DHP療法の有効性に対する多施設での検討が必要と思われる。

E. 結論

今回、我々は間質性肺炎の急性増悪・急性間質性肺炎の症例16例に対してPMX-DHPを施行し、その効果を検討した。6例で3ヶ月以上の生存が得られており、非常に予後不良とされる間質性肺炎急性増悪・急性間質性肺炎の新たな治療になりうると考えた。また、PMX-DHP療法により白血球、好中球が吸着されることにより酸素化の改善に関与している可能性があると考えた。

F. 研究発表

学会発表

当センターにおける間質性肺炎に対するPMX-DHP治療の検討

十河容子(神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器科)、小倉高志、佐藤友英、関根朗雅、篠原岳、馬場智尚、田川暁大、遠藤高広、西平隆一、小松 茂、萩原恵里、松本 裕、高橋 宏
日本呼吸器学会雑誌 46巻増刊 Page102
(2008.05)

G. 知的所有権の取得状況

なし

特発性肺線維症の臨床経過、新治療に関する研究

研究協力者 富岡洋海 神戸市立医療センター西市民病院呼吸器内科

研究要旨 特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis: IPF) の急性増悪について、連続27症例を prospective に検討した。その死亡率は56%と高く、また、受診時の PaO₂/FiO₂ が予後因子となる可能性が示唆された。IPF における健康関連 quality of life (HRQL) の経時的検討を行い、IPF の HRQL は身体的精神的両面で低下を認め、さらに身体的 quality of life が経時的に悪化していくことが示された。30例の IPF 患者を対象に、N-アセチルシステイン吸入療法の有効性についての randomized, open-label study を行い、N-アセチルシステイン長期吸入療法は本症の進行を遅らせる可能性が示唆された。

A. 研究目的

特発性肺線維症 (idiopathic pulmonary fibrosis: IPF) は慢性経過で肺の線維化が不可逆的に進行する原因不明の致死的な疾患である。本症の臨床経過ならびに新治療についての検討を行った。

B. 研究方法・結果

1) IPF の急性増悪

これまで十分な検討がなされていない IPF の急性増悪について、連続27症例を prospective に検討した。ステロイド大量療法を基本とした治療を行ったが、IPF 急性増悪の死亡率は高く、15例(56%)が死亡した。死亡群は生存群と比べ、受診時の PaO₂/FiO₂ が有意に低値であった (mean±SE, 131±23.0 vs 215±25.7, P<0.05)。急性増悪の誘因として、最近、気管支喘息や COPD の増悪との関連が指摘されている Chlamydomphila pneumoniae の感染の可能性についても検討を行った。ELISA による C.pneumoniae IgG, IgA 抗体について、ペア血清での検査が可能であった15例のうち2例(13%)が抗体価の有意な上昇を示し、本菌の急性感染あるいは再活性感染であることが示された。

2) IPF における健康関連 quality of life (HRQL) の経時的検討

難治性の慢性疾患である IPF では、患者の視点に立脚した医療評価が重要であるが、HRQL についての、特に経時的検討は乏しい。一般的 HRQL 質問票である Medical Outcome Study Short Form 36 (SF-36) を用いた横断的、経時的検討を行った。46例が参加した横断的調査では、国民標準値と比較し、SF-36 の8つのすべての下位尺度において有意な低下がみられた。1年以上生存し、同じ条件下での再検査が実施できた32例による経時的検討では、身体機能と身体の痛みの2つの下位尺度において有意な悪化が観察され、身体的 HRQL の経時的悪化が明らかであった。%VC, %DLco, 6分間歩行試験での歩行距離、酸素飽和度最低値、HRCT スリガラス状陰影スコアの変化はいくつかの SF-36 下位尺度の変化と有意な相関を認めたが、3つの下位尺度(身体の日常役割機能、精神の日常役割機能、社会生活機能)については、その経時的変化と臨床的パラメータの変化との間に有意な相関は認めなかった。

3) IPF に対する N-アセチルシステイン(NAC)吸入療法の検討

IPF ではオキシダントによる肺胞上皮障害の関与が報告されており、抗酸化作用を有する

NACの長期(1年間)吸入療法の効果を検討するため、30例のIPF患者を対象に randomized, open-label study を行った。NAC群(NAC 352 mg/day 吸入)と対照群(塩酸ブロムヘキシシ ン 4 mg/day 吸入)との比較では、肺機能(VC, DLco), 6分間歩行距離, HRQL の変化量について有意差は見られなかったが、6分間歩行中の酸素飽和度最低値変化量($-0.3 \pm 2.1\%$ vs $-6.8 \pm 1.8\%$, $P < 0.05$), 血清 KL-6 変化量(-482 ± 220 U/ml vs 176 ± 204 U/ml, $P < 0.05$), HRCT スリガラス状陰影スコア変化量(-1.3 ± 1.6 vs 6.7 ± 1.5 , $P < 0.01$)については有意差を認めた。

C. 考察

IPFの急性増悪の死亡率は高く、急性増悪受診時の $\text{PaO}_2/\text{FiO}_2$ が予後因子となる可能性が示唆された。また、*Chlamydomphila pneumoniae*の感染が急性増悪に関与している場合があることが示唆された。IPFにおけるHRQLは、身体的精神的両面で低下を認め、さらに身体的QOLが経時的に

悪化していくことが示された。HRQLは、呼吸機能やHRCTなどの臨床的アセスメントでは推定できない領域をも評価しており、IPF患者のルーチンの評価に組み込むべきであると考えられた。

NAC長期吸入療法は本症の進行を遅らせる可能性が示唆され、今後、大規模な臨床研究による検証が必要と考えられた。

D. 結論

IPFは患者のHRQLにも重大な影響を与える予後不良な疾患であり、特に死亡に直結する急性増悪への対応が重要である。現行のガイドラインにおいて経験的に推奨されているステロイド、免疫抑制剤などの効果は乏しく、新たな治療薬の開発が急務である。

G. 知的所有権の取得状況

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

（平成 18 年度）

研究成果の刊行に関する一覧表 (平成 18 年度)

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
A Azuma, S Kudoh	Invited Review: Diffuse Pnabronchiolitis in East Asia.	Respirology	11	249-261	2006
K Ohara, T Takahashi, A Azuma, S Kudoh	Ocular Sarcoidosis	SARCOIDOSIS Edt. Robert P Baughman, Taylor & Francis, Marchal Dekker	ISBN: 08247 59265	553-570	2006
Y Miyake, S Sasaki, T Yokoyama, K Chida, A Azuma, T Suda, S Kudoh, N Sakamoto, K Okamoto, G Kobashi, M Washio, Y Inaba, H Tanaka.	Dietary Fat and Meat Intake and Idiopathic Pulmonary Fibrosis: A Case-control Study in Japan	Int J Tuberc Lung Dis	10 (3)	333-339	2006
YJ Li, A Azuma, J Usuki, K Matsuda, S Abe, S Kudoh, T Kawada, S Takahashi, T Sunazuka, S Omura	EM703, A New Derivative of Erythromycin, Improves Bleomycin-Induced Pulmonary Fibrosis in Mice by Inhibition of TGF- β Signaling in Fibroblasts	Respiratory Res	7 (1)	16	2006
A Matsumoto, K Hiramatsu, A Azuma S Kudoh Yingji Li, H Takizawa, I Sugawara	Repeated Exposure To Low-Dose Diesel Exhaust After Allergen Challenge Exaggerates Asthmatic Responses In Mice	Clin Innumol	121 (2)	227-235	2006
Y Seo, S Abe, M Kurahara, D Okada, Y Saito, J Usuki, A Azuma, K Koizumi, S Kudoh	Beneficial effect of Polymyxin B-immobilized fiber column (PMX) Hemoperfusion Treatment on Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis	Inter Med	45 (18)	1033-8	2006
Fuse ET, Tateda K, Kikuchi Y, Matsumoto T, Gondaira F, Azuma A, Kudoh S, Standiford TJ, Yamaguchi K	Role of Toll-like receptor 2 in recognition of Legionella pneumophila in a murine pneumonia model	J Med Microbiol	56	305-12	2007
奥村昌夫, 岩井和郎, 尾形英雄, 吉山崇, 吉森浩三, 水谷清二, 杉田博宣, 吾妻安良太, 工藤翔二	肺 Mycobacterium avium complex (MAC) 症の結核類似空洞型と結節性気管支拡張型, その発症要因ならびに予後因子に関する臨床的検討	日本呼吸器学会誌	44	3-11	2006
吾妻安良太, 高橋光良, 鹿住祐子, 田中さゆり, 吉山崇, 尾形英雄, 中島由槻, 吾妻安良太, 工藤翔二	肺 Mycobacterium avium コメディカルのための疾患知識 (看護教育シリーズ) vol 14	日本呼吸器学会誌 びまん性肺疾患 2. ビデオ (VHS) MEDICAL VISION	44	91-98	2006
瀬尾宜嗣, 吾妻安良太, 工藤翔二	特発性肺線維症	モダン・フィジシャン (企画編集: 滝沢 始)	26	361-366	2006
吾妻安良太	薬剤性肺障害の遺伝性素因と人種差	日本医師会雑誌	134	2111-2115	2006
吾妻安良太	Q&A 特発性間質性肺炎診断・治療ガイドラインの意味するもの	The Lung perspective	13	327-329	2006
藤田和恵, 吾妻安良太, 工藤翔二	間質性肺炎のガイドラインー特発性間質性肺炎 (IIPs) 第 4 次改訂診断基準による診断と治療ー	呼吸器科	9 (3)	256-265	2006
藤田和恵, 吾妻安良太	ピルフェニドン	医学のあゆみ			2006
吾妻安良太	6. 特発性肺線維症の新しい治療・トレーニング問題	日本内科学会雑誌	95	1069-1075	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
松本重紀, 吾妻安良太	特集インターフェロン治療学, 特発性肺線維症	日本臨床	64 (7)	1354-1360	2006
吾妻安良太, 神尾孝一郎, 土方美奈子, 慶長直人	びまん性汎再気管支炎の疾患感受性遺伝子	呼吸と循環	54 (8)	801-805	2006
吾妻安良太	薬剤性肺障害の現状と問題点	呼吸と循環	54 (10)	1071-1076	2006
吾妻安良太, 工藤翔二	薬剤起因性間質性肺炎4. 薬剤起因性間質性肺炎に人種差はあるのか	治療学	40 (11)	1226-1230	2006
Miwa S, Uchida C, Kitagawa K, Hattori T, Oda T, Sugimura H, Yasuda H, Nakamura H, Chida K, Kitagawa M	Mdm-mediated pRB downregulation is involved in carcinogenesis in a p53-independent manner	BBRC	340	54-61	2006
妹川史朗, 佐野武尚, 戸館亮人, 内山 啓, 安田和雅, 永山雅晴, 榎本紀之, 須田隆文, 千田金吾	シベレスタット及びステロイド剤の使用で改善した間質性肺炎による急性呼吸不全の2例	日本呼吸器学会雑誌	44 (1)	27-33	2006
千田金吾	特集2喘息診断のひけつ 喘息をする病気とは? 喘息以外で喘鳴をする疾患があるのですか?	Q & Aでわかるアレルギー疾患	2 (1)	57-59	2006
千田金吾	間質性肺炎とは	呼吸器&循環器ケア	6 (1)	20-24	2006
千田金吾	特発性間質性肺炎のプロフィール	呼吸器&循環器ケア	6 (1)	25-30	2006
千田金吾	特発性間質性肺炎の臨床所見, 検査法と解釈	呼吸器&循環器ケア	6 (1)	31-35	2006
千田金吾	間質性肺炎の治療と看護	呼吸器&循環器ケア	6 (1)	36-41	2006
千田金吾	呼吸器系疾患の病態生理と治療薬	器管別病態生理と治療薬		579-630	2006
豊嶋幹生, 橋本 大, 千田金吾	好酸球性肺炎における好酸球性炎症の病態と制御	呼吸と循環	54 (3)	241-246	2006
Miyake Y, Sasaki S, Yokoyama T, Chida K, Azuma A, Suda T, Kudoh S, Sakamoto N, Okamoto K, Kobashi G, Washio M, Inaba Y, Tanaka H, Japan idiopathic pulmonary fibrosis study group	Dietary fat and meat intake and idiopathic pulmonary fibrosis: a case-control study in Japan	Int J tuberc lung dis	10 (3)	333-339	2006
黒石重城, 千田金吾	好中球エラスターゼ阻害剤(エラスポール)の治療効果	呼吸器科	9 (4)	382-386	2006
千田金吾	呼吸器感染症に対する経口抗菌薬の比較検討 感染症と化学療法	ラジオNIKKEIアボット感染症アワードダイジェスト版			2006
杉山幸比古, 千田金吾, 小倉高志, 山口 哲, 宮崎邦夫	びまん性肺疾患をどう診るか	日本内科学会雑誌	95 (6)	1076-1093	2006
須田隆文, 千田金吾	呼吸不全	内科	98 (1)	65-68	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
千田金吾, 黄川田啓子, 岸本肇, 山崎 晃, 妹川史朗, 小清水直樹, 渡辺春充, 松井 隆, 小川博示, 貝田勇介, 黒石重城, 白井正浩, 仲田千穂, 菅沼秀基, 戸館亮人, 永山雅晴	急性気道感染症に対する経口抗菌薬投与の意義について—マクロライド系薬とセフェム系薬の比較—	日本医事新報	Sep-11	62-67	2006
千田金吾, 松井 隆, 須田隆文, 乾 直輝	特発性間質性肺炎における抗血管内皮細胞抗体の検討	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 びまん性肺疾患に関する調査研究班	平成17年度研究報告	62-65	2006
小澤雄一, 榎本紀之, 須田隆文, 千田金吾	肺癌に合併した間質性肺炎についての臨床的検討	第73回間質性肺疾患研究会討議録		68-74	2006
千田金吾	CT時代の胸部単純X線写真撮影と読影の注意点	Journal of the SHIZUOKA Association of Radiological Technologists	16(1)	40-42	2006
佐藤篤彦, 須田隆文	肺・胸膜	サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患		64-70	2006
乾 直輝, 千田金吾	シェーグレン症候群との合併	サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患		246-7	2006
柄山正人, 乾 直輝, 安井秀樹, 山崎佐和, 村松江里子, 右藤智啓, 森田 悟, 朝田和博, 土屋智義, 中野 豊, 須田隆文, 千田金吾	肺野末梢側に限局する陰影を呈したオウム病の一例	日本呼吸器学会雑誌	44(9)	670-673	2006
藤澤朋幸, 鈴木研一郎, 横村光司, 松本一彦, 橋本久邦, 須田隆文, 千田金吾	フルチカゾン吸入 (FP-DPI) 中の安定期気管支喘息患者においてブデゾニド吸入 (BUD-DPI) へ変更した際の適正吸入量の検討	アレルギー・免疫	13(9)	68-75	2006
千田金吾	肉芽腫性疾患—Wegener肉芽腫症	内科学 I		1005-1008	2006
千田金吾	肉芽腫性疾患—肺 Langerhans 細胞組織球症 (肺好酸球性肉芽腫症)	内科学 I		1008-1010	2006
Enomoto N, Suda T, Masato Kato M, Kaida U, Nakamura Y, Imokawa S, Ida M, Chida K	Quantitative Analysis of Fibroblastic Foci in Usual Interstitial Pneumonia	Chest	130(1)	22-29	2006
千田金吾, 貝田勇介, 榎本紀之, 宮本康敬, 松本久邦, 須田隆文	ステロイド投与例におけるシクロスポリン血中濃度の検討	厚生労働科学研究 特発性間質性肺炎の画期的治療法に関する臨床研究	平成17年度研究報告書	72-76	2006
J. W. Tyner, E. Y. Kim, Ide K, M. R. Pelletier, W. T. Roswit, J. D. Morton, J. T. Battaile, A. C. Patel, G. A. Patterson, M. Castro, M. S. Spoor, Y. You, S. L. Brody, M. J. Holtzman	Blocking airway mucous cell metaplasia by inhibiting EGFR antiapoptosis and IL-13 transdifferentiation signals	The Journal of Clinical Investigation	116(2)	309-321	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
千田金吾	特発性肺線維症 (IPF) に対して標準治療を行う場合の問題点	別冊医学のあゆみ	218 (9)	755-759	2006
Suda T, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura K, Inui N, Naito T, Hashimoto D, Sato J, Toyoshima M, Hashizume H, Chida K	Interstitial lung diseases associated with amyopathic dermatomyositis	European Respiratory Journal	28 (5)	1005-1012	2006
成瀬代士久, 乾 直輝, 安井秀樹, 柄山正人, 山崎佐和, 村松江里子, 右藤智啓, 森田悟, 土屋智義, 中野 豊, 榎本紀之, 妹川史朗, 須田隆文, 千田金吾	急速に呼吸不全が進行した原発性シェーグレン症候群に伴った間質性肺炎の1例	日本呼吸器学会雑誌	44 (10)	721-726	2006
千田金吾, 豊嶋幹生	膠原病性間質性肺炎4 強皮症	治療学	40 (11)	1185-1189	2006
Sato M, Chida K, Suda T, Muramatsu H, Szuki Y, Hashimoto H, Gemma H, Nakamura H	Recommended initial loading dose of teicoplanin, established by therapeutic drug monitoring, and outcome in terms of optimal trough level	J Infect Chemother	12 (4)	185-189	2006
妹川史朗, 豊嶋幹生, 谷口正実, 早川啓史, 千田金吾	アスピリンにより改善する喘息	アレルギー免疫	14 (1)	76-79	2006
Shirai T, Inui N, Suda T, Chida K	Correlation between peripheral blood T-cell profiles and airway inflammation in atopic asthma	J Allergy Clin Immunol	118 (3)	622-626	2006
成瀬代士久, 乾 直輝, 安井秀樹, 柄山正人, 山崎佐和, 村松江里子, 右藤智啓, 森田悟, 土屋智義, 中野 豊, 榎本紀之, 妹川史朗, 須田隆文, 千田金吾	急速に呼吸不全が進行した原発性シェーグレン症候群に伴った間質性肺炎の1例	日本呼吸器学会雑誌	44 (10)	721-726	2006
松山泰, 豊嶋幹生, 須田隆文, 千田金吾	肺病変を伴って再発した結節性多発動脈炎の1例	日本胸部臨床	65 (5)	484-488	2006
Nakano H, Nagata T, Suda T, Tanala T, Aoshiu T, Uchijima M, Kuwayama S, Kanamaru N, Chida K, Nakamura H, Okada M, Koide Y	Immunization with dendritic cells retrovirally transduced with mycobacterial antigen 85A gene elicits the specific cellular immunity including cytotoxic T-lymphocyte activity specific to an epitope on antigen 85A	Vaccine	24 (12)	2110-2119	2006
Naito T, Hasegawa H, Asada K, Suda T, Chida K	Lymphangitis carcinomatosa as a potential predictor for a response to gefitinib	Clin Oncol (R Coll Radiol). Clinical Oncology	18 (7)	573-574	2006
Naito T, Suda T, Yasuda K, Yamada T, Todate A, Tsuchiya T, Sato J, Chida K, Nakamura H	A validation and potential modification of the pneumonia severity index in elderly patients with community-acquired pneumonia	J Am Geriatr Soc	54 (8)	1212-9	2006
Konno K, Wakabayashi Y, Akashi-Takamura S, Ishii T, Kobayashi M, Takahashi K, Kusumoto Y, Saitoh S, Yoshizawa Y, Miyake K	A molecule that is associated with Toll-like receptor 4 and regulates its cell surface expression	Biochemical and Biophysical Research Communications	339	1076-1082	2006
Inase N, Ohtani Y, Sumi Y, Umino T, Usui Y, Miyake S, Yoshizawa Y	A clinical study of hypersensitivity pneumonitis presumably caused by feather duvets	Ann Allergy Asthma Immunol	96 (1)	98-104	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kondoh K, Usui Y, Ohtani Y, Inase N, Miyake S, Yoshizawa Y	Proinflammatory and anti-inflammatory cytokine gene polymorphisms in hypersensitivity pneumonitis	J Med Dent Sci	53 (1)	75-83	2006
Konno M, Baba S, Mikawa H, Hara K, Matsumoto F, Kaga K, Nishimura T, Kobayashi T, Furuya N, Moriyama H, Okamoto Y, Furukawa M, Yamanaka N, Matsushima T, Yoshizawa Y, Kohno S, Kobayashi K, Morikawa A, Koizumi S, Sunakawa K, Inoue M, Ubukata K	Study of nasopharyngeal bacterial flora: Second report. Variations in nasopharyngeal bacterial flora in children aged 6 years or younger when administered antimicrobial agents	Part 1 J Infect Chemother	12	287-304	2006
Konno M, Baba S, Mikawa H, Hara K, Matsumoto F, Kaga K, Nishimura T, Kobayashi T, Furuya N, Moriyama H, Okamoto Y, Furukawa M, Yamakawa N, Matsushima T, Yoshizawa Y, Kohno S, Kobayashi K, Morikawa A, Koizumi S, Sunakawa K, Inoue M, Ubukata K	Study of upper respiratory tract bacterial flora: first report. Variations in upper respiratory tract bacterial flora in patients with acute upper respiratory tract infection and healthy subjects and variations by subject age	J Infect Chemother	12	83-96	2006
柴田誠子, 岸 雅人, 坂下博之, 新 謙一, 吉澤靖之	AIDS 関連気管支内悪性リンパ腫の1例気管支学		28	289-294	2006
宮崎泰成, 古家 正, 倉持 仁, 岸 雅人, 土屋公威, 三宅修司, 稲瀬直彦, 吉澤靖之	慢性鳥飼病動物モデルの肺線維過程における喫煙の影響—マウスを用いた鳥飼病モデルにおける喫煙曝露の影響の検討 喫煙科学研究財団研究年報	平成17年度			
井上哲郎, 田中栄作, 櫻本 稔, 水口正義, 前田勇司, 馬庭 厚, 寺田邦彦, 谷澤公伸, 橋本成修, 後藤俊介, 竹田知史, 岡元昌樹, 小橋陽一郎, 弓場吉哲, 野間恵之, 吉澤靖之, 大谷義夫, 田口善夫	鳥関連慢性過敏性肺炎8例の臨床的検討	日呼吸会誌	44 (8)	550-555	2006
田ノ上雅彦, 山本恭子, 藤井ゆみ, 十河容子, 堀田浩一, 松原 修, 吉澤靖之	ミノサイクリンによる薬剤誘起性好酸球性肺炎の1例	アレルギーの臨床	26 (9)	53-57	2006
Homma S, Sakamoto S, Kawabata M, Kishi K, Tsuboi E, Hebisawa A, Motoi N, Yoshimura K	Comparative clinicopathology of obliterative bronchiolitis and diffuse panbronchiolitis	Respiration	73	481-487	2006
杉野圭史, 本間 栄, 高谷久史, 宮本 篤, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 坪井永保, 元井紀子, 吉村邦彦	インフルエンザウイルス感染を契機に発症した致死的侵襲性肺炎アスペルギルス症の1例	日呼吸会誌	44	207-214	2006
杉野圭史, 川畑雅照, 本間 栄, 河野 匡, 元井紀子, 吉村邦彦	細気管支肺胞上皮癌様の肺内進展を呈した悪性胸膜中皮腫の1例	肺癌	46	215-220	2006
小林美奈穂, 磯部和順, 清水邦彦, 木村一博, 長谷川千花子, 本間 栄	FDG-PETにより早期診断し得た肺小細胞癌胃転移の1例	肺癌	46	759-764	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kishi K, Homma S, Kurosaki A, Motoi N, Nakata K, Yoshimura K	High-Resolution Computed Tomography findings of lung cancer associated with idiopathic pulmonary fibrosis	J Comput Assist Tomogr	30	95-99	2006
Kishi K, Homma S, Kurosaki A, Kohno T, Motoi N, Yoshimura K	Clinical features and high-resolution CT findings of pulmonary cryptococcosis in non-AIDS patients	Resp Med	100	807-812	2006
宮本 篤, 坪井永保, 高谷久史, 杉野圭史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 成井浩司, 本間 栄, 中谷龍王, 中田紘一郎, 吉村邦彦	経皮的病巣穿刺にて Haemophilus Parainfluenzae および Streptococcus intermedius が分離された肺膿瘍の1例	日呼吸会誌	44	561-565	2006
岸 一馬, 本間 栄, 高谷久史, 宮本 篤, 坂本 晋, 黒崎敦子, 元井紀子, 吉村邦彦	進行期大細胞神経内分泌癌の臨床的検討	日呼吸会誌	44	556-560	2006
Homma S	Pulmonary fibrosis in an individual occupationally exposed to inhaled indium-tin oxide	Helix Review Series	3 (1)	17-20	2006
坪井永保, 宮本 篤, 高谷久史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 本間 栄, 吉村邦彦, 井上隆三, 生亀愛弥子, 遠藤和彦, 加藤光恵, 野村秀樹	運動療法を含む呼吸リハビリテーションを行った COPD 症例の BODE index に関する検討	臨床呼吸生理	38	27-30	2006
太田宏樹, 杉野圭史, 山崎陽子, 菊地 直, 榎本崇宏, 山部啓太郎, 佐野 剛, 磯部和順, 濱中伸介, 高井雄二郎, 清水邦彦, 木村一博, 長谷川千花子, 石川由紀雄, 渋谷和俊, 本間 栄	乳癌の術前化学療法中に発症したフルオロウラシル誘起性間質性肺炎の1例	臨床呼吸生理	38	67-71	2006
本間 栄	N-アセチルシステイン	治療学	40	77-78	2006
本間 栄	成人の百日咳	総合臨床	55	2886-2888	2006
畑中一仁, 本間 栄, 植草利公	びまん性汎細気管支炎, 線毛不動症候群の病理と病態	病理と臨床	24	949-956	2006
本間 栄, 宮本 篤, 高谷久史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 坪井永保, 吉村邦彦, 吾妻安良太, 工藤翔二	早期特発性肺線維症に対する N-アセチルシステイン吸入療法に関する前向き多施設共同治療研究	厚生労働科学研究費補助金「特発性間質性肺炎の画期的治療法に関する臨床研究」班	平成 17年度 研究報告書	11-13	2006
宮本 篤, 本間 栄, 高谷久史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 坪井永保, 河野 一, 藤井丈士, 黒崎敦子, 吉村邦彦	特発性間質性肺炎における原発性肺癌合併例の臨床病理学的検討	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患調査研究班	平成 17年度 研究報告書	100-106	2006
高井雄二郎, 佐藤龍太, 杉野圭史, 中田紘一郎, 小橋陽一郎, 内田 耕	乳癌術後放射線療法後に発症した BOOP の1例	日呼吸会誌	44	55-59	2006
杉野圭史, 本間 栄, 高谷久史, 宮本 篤, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 坪井永保, 元井紀子, 吉村邦彦	インフルエンザウイルス感染を契機に発症した致死的侵襲性肺炎スベルギルス症の1例	日呼吸会誌	44	207-214	2006
杉野圭史, 木村一博, 佐野 剛, 加藤信秀, 高木啓吾, 土屋香代子, 蛇澤 晶, 中田紘一郎	Stevens-Johnson 症候群に合併した閉塞性細気管支炎の1剖検例	日呼吸会誌	44	511-516	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
宮本 篤, 坪井永保, 高谷久史, 杉野圭史, 坂本 晋, 川畑雅照, 岸 一馬, 成井浩司, 本間 栄, 中谷龍王, 中田紘一郎, 吉村邦彦	経皮的病巣穿刺にて Haemophilus Parainfluenzae および Streptococcus intermedius が分離された肺膿瘍の1例	日呼吸会誌	44	561-565	2006
杉野圭史, 木村一博, 廣井眞弓, 内田 耕, 秦 美暢, 高木啓吾, 長谷川千花子, 渋谷和俊, 小橋陽一郎, 中田紘一郎	胸膜病変を呈し塵肺との鑑別が問題となったサルコイドーシスの1症	日呼吸会誌	44	838-843	2006
磯部和順, 梁 英富, 杉野圭史, 名取一彦, 木村一博, 倉石安庸	肺癌増悪時に特発性血小板減少性紫斑病を発症した1例	肺癌	46	155-159	2006
杉野圭史, 川畑雅照, 本間 栄, 河野 匡, 元井紀子, 吉村邦彦	細気管支肺胞上皮癌様の肺内進展を呈した悪性胸膜中皮腫の1例	肺癌	46	215-220	2006
太田宏樹, 杉野圭史, 山崎陽子, 菊地 直, 榎本崇宏, 山部啓太郎, 佐野 剛, 磯部和順, 濱中伸介, 高井雄二郎, 清水邦彦, 木村一博, 長谷川千花子, 石川由紀雄, 渋谷和俊, 本間栄	乳癌の術前化学療法中に発症したフルオロウラシル誘起性間質性肺炎の1例	臨床呼吸生理	38	67-71	2006
細野達也, 弘中 貢, 坂東政司, 星野東明, 大野彰二, 杉山幸比古	難治性器質化肺炎を合併した骨髄異形成症候群の1剖検例	日呼吸会誌	44	185-191	2006
大門皇寿, 田島俊児, 坂東政司, 大野彰二, 弘中 貢, 杉山幸比古	肺動脈原発の線維肉腫の1例	日呼吸会誌	44	319-324	2006
中山雅之, 坂東政司, 小林 晃, 山沢英明, 大野彰二, 杉山幸比古	血液疾患に合併した胸部異常陰影に対する気管支鏡検査の有用性	気管支学	28	278-283	2006
宮崎邦夫, 細野達也, 坂東政司, 曾田 学, 山沢英明, 大野彰二, 佐藤幸夫, 蘇原泰則, 杉山幸比古	Mycobacterium szulgai 感染後に合併した肺アスペルギルス症の1例	気管支学	28	300-305	2006
石井義和, 杉山幸比古, 坂東政司, 大野彰二	HLA-B54 陽性の関節リウマチ・珪肺症に肺癌を合併した1例	日呼吸会誌	44	993-996	2006
Tajima S, Hironaka M, Oshikawa K, Bando M, Ohno S, Saito K, Sohara Y, Sugiyama Y	Intrathoracic sporadic desmoid tumor with the Beta-catenin gene mutation in exon3 and activated cyclin D1	Respiration	73	558-561	2006
Yokoyama A, Kondo K, Nakajima M, Matsushima T, Takahashi M, Nishimura M, Bando M, Sugiyama Y, Totani Y, Ishizaki T, Ichiyasu H, Suga M, Hamada H, Kohno N	Prognostic value of circulation KI-67 in idiopathic pulmonary fibrosis	Respirology	11	164-168	2006
Tajima S, Bando M, Yanagisawa H, Ohno S, Moriyama H, Takada T, Suzuki E, Gejyo F, Sugiyama Y	Preventive effect of Hochu-ekki-to on lipopolysaccharide-induced acute lung injury in BALB/c mice	Lung	184	318-323	2006
Takahashi H, Shiratori M, Kanai A, Chiba H, Kuroki Y, Abe S.	Monitoring markers of disease activity for interstitial lung diseases with serum surfactant proteins A and D.	Respirology	11	S51-S54	2006

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Takahashi H, Sano H, Chiba H, Kuroki Y.	Pulmonary surfactant protein A and D: innate immune function and biomarkers for lung disease.	Current Pharmaceutical Design	12 (5)	589-598	2006
Takahashi H, Chiba H, Shiratori M, Tachibana T, Abe S.	Elevated serum surfactant protein A and D in pulmonary alveolar microlithiasis.	Respirology	11 (3)	330-333	2006
Kitajima H, Takahashi H, Harada K, Kanai A, Inomata S, Taniguchi H, Saikai T, Abe S.	Gefitinib-induced interstitial lung disease showing improvement after cessation: Disassociation of serum markers.	Respirology	11 (2)	217-220	2006
高橋弘毅, 白鳥正典, 猪股慎一郎	びまん性肺疾患の分類と診断 びまん性肺疾患の疾患活動性マーカー	内科	99 (2)	218-222	2007
千葉弘文, 大塚満雄, 工藤和実, 村上聖司, 白鳥正典, 黒木由夫, 高橋弘毅	肺障害・線維化に関わる肺細胞とその産生分子 血清中に SP-D に対する自己抗体を認めた Dermatomyositis の一例	分子呼吸器病	11 (1)	83-87	2007
村上聖司, VoelkerDR, 工藤和実, 千葉弘文, 白鳥正典, 黒木由夫, 高橋弘毅	肺障害・線維化に関わる肺細胞とその産生分子 肺サーファクタント蛋白質 A(SP-A) による Mycobacterium tuberculosis(H37Rv) の増殖抑制作用	分子呼吸器病	11 (1)	49-52	2007
高橋弘毅, 白鳥正典	診断の進歩 びまん性肺疾患と血清マーカー	日本内科学会雑誌	95 (6)	986-992	2006
高橋弘毅, 白鳥正典, 千葉弘文.	病態からとらえた血清マーカー乖離の解釈.	分子呼吸器病学	10 (2)	111-116	2006
千葉弘文, 高橋弘毅	間質性肺炎/サルコイドーシスと遺伝子多型	呼吸と循環	54 (8)	839-844	2006
大塚満雄, 白鳥正典, 千葉弘文, 高橋弘毅	アンジオテンシン受容体拮抗薬による肺線維化抑制効果と SP-A の発現変化に関する検討	分子呼吸器病	10 (3)	183-186	2006
高田俊範, 成田淳一, 鈴木栄一他	当院における間質性肺炎急性増悪症例に対する PMX-DHP の使用経験	厚生労働科学研究 特発性間質性肺炎の画期的治療法に関する臨床研究	平成 17 年度研究報告書	88-92	2006
Inoue Y, Nakata K, Arai T, Tazawa R, Hamano E, Nukiwa T, Kudo K, Keicho N, Hizawa N, Yamaguchi E, Eda R, Oishi K, Maeda Y, Koreeda Y, Kodo N, Sakatani M	Epidemiological and clinical features of idiopathic pulmonary alveolar proteinosis in Japan	Respirology	11	S55-60	2006
Akira M, Kozuka T, Inoue Y, Sakatani M	Long-term follow-up CT scan evaluation in patients with pulmonary sarcoidosis	Chest	127	185-91	2005 Jan
Wasfi YS, Rose CS, Murphy JR, Silveira LJ, Grutters JC, Inoue Y, Judson MA, Maier LA	A new tool to assess sarcoidosis severity	Chest			2006 in press
N. Yoshimi, Y. Ikura, Y. Sugama, S. Kayo, M. Ohsawa, S. Yamamoto, Y. Inoue, K. Hirata, H. Itabe, J. Yoshikawa and M. Ueda	Oxidized Phosphatidylcholine in Alveolar macrophages in idiopathic interstitial pneumonias	Lung	183	109-121	2005

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Arai T, Inoue Y, Yamamoto S, Akira M, Uesugi H, Hayashi S, Sakatani M	Incipient stage of pulmonary Langerhans-cell histiocytosis complicated with pulmonary tuberculosis was examined by high-resolution computed tomography	Respir Med	99	1188-90	2005
Arai T, Inoue Y, Hayashi S, Yamamoto S, Sakatani M	Risedronate induced BOOP complicated with sarcoidosis	Thorax	60	613-4	2005
Tazawa R, Nakata K, Inoue Y, Nukiwa T	Granulocyte-macrophage colony-stimulating factor inhalation therapy for patients with idiopathic pulmonary alveolar proteinosis: a pilot study; and long-term treatment with aerosolized granulocyte-macrophage colony-stimulating factor: a case report	Respirology	11	S61-4	2006
Tazawa R, Hamano E, Arai T, Ohta H, Ishimoto O, Uchida K, Watanabe M, Saito J, Takeshita M, Hirabayashi Y, Ishige I, Eishi Y, Hagiwara K, Ebina M, Inoue Y, Nakata K, Nukiwa T	Granulocyte-macrophage colony-stimulating factor and lung immunity in pulmonary alveolar proteinosis	Am J Respir Crit Care Med.	171	1142-9	2005
Yoshida S, Tanaka T, Kita Y, Kuwayama S, Kanamaru N, Muraki Y, Hashimoto S, Inoue Y, Sakatani M, Kobayashi E, Kaneda Y, Okada M	DNA vaccine using hemagglutinating virus of Japan-liposome encapsulating combination encoding mycobacterial heat shock protein 65 and interleukin-12 confers protection against Mycobacterium tuberculosis by T cell activation	Vaccine			Epub 2005 Sep 19 (2006 in press)
Kita Y, Tanaka T, Yoshida S, Ohara N, Kaneda Y, Kuwayama S, Muraki Y, Kanamaru N, Hashimoto S, Takai H, Okada C, Fukunaga Y, Sakaguchi Y, Furukawa I, Yamada K, Inoue Y, Takemoto Y, Naito M, Yamada T, Matsumoto M, McMurray DN, Cruz EC, Tan EV, Abalos RM, Burgos JA, Gelber R, Skeiky Y, Reed S, Sakatani M, Okada M	Novel recombinant BCG and DNA-vaccination against tuberculosis in a cynomolgus monkey model	Vaccine	18; 23	84859	2005
井上義一	特発性肺線維症：診断と治療の進歩。診断と病態。分類と診断	日本内科学会雑誌	94	1032-1038	2005
大塚淳司, 濱口直彦, 新井徹, 井上義一	家族性肺線維症の臨床	日本胸部臨床	64	388-398	2005
安藤性實, 新井 徹, 井上義一, 林 清二, 河原正明, 北市正則, 小塚健倫, 審良正則, 坂谷光則	FDG-PET により癌病巣の局在を同定しえた特発性肺線維症に合併した肺腺癌の1例	日本呼吸器学会雑誌	43	476-480	2005
井上義一, 小堂直彦, 是枝幸子, 前田優華, 坂谷光則	LAMにおけるLAM細胞の増殖と組織破壊のシグナル; マスト細胞の関与をみる	分子呼吸器病	9	38-43	
立花暉夫, 井上義一	第8回 WASOG Meeting 報告記. 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会	25	91-92	2005
大塚淳司, 井上義一	NSIP の予後と治療	最新医学	60	89-94	2005

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
井上義一, 是枝幸子, 前田優華, 小堂直彦, 露口一成, 鈴木克洋, 岡田全司, 坂谷光則	医学教育における結核 4. 結核教育における国立病院機構病院の役割ー結核教育に関するアンケート調査報告ー	結核	80	762-767	2005
鈴木克洋, 吉田志緒美, 露口一成, 源誠二郎, 井上義一, 林 清二, 岡田全司, 坂谷光則	肺カンサシ症の治療	結核	81	41-43	2006
久保恵嗣, 井上義一	本邦における LAM の治療, 予後の現状と問題点	日本胸部臨床	65	150-155	2006
Kanako Sugiyama, Hiroshi Mukae, Hiroshi Ishii, Tomoyuki Kakugawa, Hiroshi Ishimoto, Seiko Nakayama, Ryo Shirai, Takeshi Fujii, Yohei Mizuta and Shigeru Kohno	Elevated Levels of IP-10 and ENA-78 in Patients with Pulmonary Sarcoidosis	Respirology	11	708-714	2006
Kitahara Y, Hattori N, Yokoyama A, Nakajima M, Kohno N	Effect of CPAP on brachial-ankle pulse wave velocity in patients with OSAHS: An open-labelled study	Respir Med	100	2160-2169	2006
Taniwaki M, Daigo Y, Ishikawa N, Takano A, Tsunoda T, Yasui W, Inai K, Kohno N, Nakamura Y	Gene Expression Profiles of Small-Cell Lung Cancers: Molecular Signatures of Lung Cancer	Intl J Oncol	29	576-76	2006
Ishikawa N, Daigo Y, Takano A, Kato T, Tanaka S, Yasui W, Takeshima Y, Inai K, Nishimura H, Tsuchiya E, Kohno N, Nakamura Y	Characterization of SEZ6L2 cell-surface protein as a novel histochemical and prognostic marker for lung cancer	Cancer Sci	97	737-745	2006
Doi M, Yokoyama A, Kondo K, Onishi H, Ishikawa N, Hattori N, Kohno N	Anti-tumor Effect of the Anti-KL-6/MUC1 Monoclonal antibody: Exposure of the Surface Molecules by Capping of MUC1	Cancer Sci	97	420-429	2006
Yokoyama A, Kondo K, Nakajima M, Matsushima T, Takahashi T, Nishimura M, Bando M, Sugiyama Y, Totani Y, Ishizaki T, Ichiyasu H, Suga M, Hamada H, Kohno N	Prognostic value of circulating KL-6 in idiopathic pulmonary fibrosis	Respirology	11	164-168	2006
Ito R, Yokoyama A, Hamada H, Yasuhara Y, Kohno N, Higaki J	Effect of inhaled bronchodilators on air trapping in patients with stable asthma	J Asthma	43	125-129	2006
服部 登, 河野修興	間質性肺炎の理解: 肺線維化の機序について	治療学	40	11-14	2006
服部 登, 河野修興	肺線維化マーカーの測定意義	検査と技術	34	1170-1171	2006
峠岡康幸, 河野修興	薬剤性肺障害ー診断のフローチャート	日本医学会雑誌	134	2131-2134	2006
峠岡康幸, 河野修興	放射線性肺臓炎における KL-6 の意義	分子呼吸器病	10	346-350	2006
大成洋二郎, 横山彰仁, 河野修興	呼吸器疾患のバイオマーカー	呼吸と循環	54	607-613	2006
大成洋二郎, 横山彰仁, 河野修興	新しい臨床検査・未来の臨床検査 シアル化糖鎖抗原 KL-6	検査と技術	34	1166-1169	2006
河野修興	臨床における KL-6 の使い方	日本内科学会雑誌	95	1858-1862	2006
服部 登, 河野修興	間質性肺炎・肺線維症: 遺伝子多型をめぐる最近の進歩をみる	分子呼吸器病	10	21-26	2006